事務事業 No./名称	☒ サービス部門 都整-48 ☐ 支援部門		施設整備事業(污水)				
主管課	浄化センター	関連課	下水道課				
分野名	下水道・河川						
目標 (目標値)	耐用年数を超えた汚水中継ポンプ場の再構築を図る。						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	832,892	151,000	63,147			
	(国・県)	419,356	77,010	9,180			
	(負担金等)	371,300	64,345	7,938			
	(一般財源)	42,236	9,645	46,029			
	人員配置数	2.0	2.0	1.0			
	人件費(千円)	17,135	17,877	8,920			
	協働のパートナー						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	850,027	168,877	72,067	対象者1人は水洗化人口 で計算 20年度: 70,348人 21年度: 70,551人 22年度: 70,680人		
	市民1人当りの経費(円)	4,798	956	408			
	対象者1人当りの経費(円)	12,026	2,394	1,024			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					

◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。		
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。		
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止		
施設整備事業	832,892千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	耐用年数を超えた七里ガ浜ポンプ場、西部ポンプ場の改築工事及び中部ポンプ場の実施設計業務。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)	
H22年度の課題	維持管理経費の削減。 各ポンプ場の老朽化対策。
課題解決のための取組	改築工事で処理効率の良い最新機種を採用により、維持管理経費の削減を図る。 七里ガ浜ポンプ場機器の更新は平成22年度に完了。西部ポンプ場改築工事は今年度の完成を目指していく。また、中部ポンプ場実施設計業務を行った。
未解決の課題	工事が完了するまで、老朽化した施設の維持に万全を期す。
今後の方針	ポンプ場の機械・電気設備の改築更新を国庫補助事業で計画的に実施していく。
今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止 ⇒ A ※ ☐ 事業完了 課長名 浄化センター所長 原秀広